

2020年度

関西学院大学 ボランティア活動支援センター
ヒューマン・サービス支援室

Volunteer Activity Office "Human Service" Support Office



2020年度 関西学院大学ボランティア活動支援センター「ヒューマン・サービス支援室」活動報告書

関西学院大学「ヒューマン・サービス支援室」

2020 年度

関西学院大学ボランティア活動支援センター

ヒューマン・サービス支援室 活動報告書

関西学院大学 ヒューマン・サービス支援室

■ はじめに

ボランティア活動支援センター長 挨拶	2
富田 宏治	
ヒューマン・サービス支援室長 挨拶	3
関 嘉寛	
ボランティアコーディネーター 挨拶	4
岡 秀和、小林 真綾	
2020 年度学生コーディネーター代表 挨拶	5
西宮上ヶ原キャンパス 中川 令実	
神戸三田キャンパス 赤畑 清花、井吹 未奈	

■ ヒューマン・サービス支援室

1. ヒューマン・サービス支援室とは	8
学内における位置づけ	
組織図	
2020 年度の取り組み	
2021 年度の計画	
2. ボランティアコーディネート	11
支援室の利用状況（西宮上ヶ原キャンパス、神戸三田キャンパス、オンライン）	
外部団体からの情報提供数	
3. 情報発信	13
ホームページ、SNS	
ニュースレター vol.3	
4. 災害支援・防災啓発	14
熊本地震現地ボランティア体験記～災害支援ボランティアの可能性～	
熊本地震現地ボランティア参加者 Zoom 同窓会	
コロナ禍と防災	
災害ボランティアをするには？	
5. SDGs 啓発、学生所属団体支援	16
食べ残し NO ゲームオンライン体験会	
With コロナで新メンバー募集、どうする？	

■ 学生コーディネーター

1. 学生コーディネーター（学生 CO）とは	18
概要	
2020 年度年間目標	
2. 学生コーディネーターの活動	19
所属人数	
年間活動スケジュール	
情報発信	
春ボラ	
ボラ☆チャットの会	
ボラ紹介動画	
ボラ☆クイズ大会	
Web ボランティア EXPO	
防災の日企画～遊ぶ、知る、考える、活かす～	
サクッと学べる初心者防災	
ボランティア week	
学生 CO 総会	
ボラログ	
3. 研修	26
基礎研修	
コーディネーション研修	
4. 来年度に向けて	28
2021 年度学生コーディネーター代表挨拶	
西宮上ヶ原・西宮聖和キャンパス 墨谷 遼介	
神戸三田キャンパス 赤畑 清花、井吹 未奈	

■ 記録事項

取材記録	30
ボランティア活動支援センター規程	31
ヒューマン・サービス支援室規程	32
ボランティア活動支援センター名簿	33
ヒューマン・サービス支援室名簿	33
2020 年度 学生コーディネーター代表部名簿	33

はじめに



ボランティア活動支援センター長

富田 宏治 (法学部教授・副学長)



2020年度は、新型コロナウイルス感染症の広がりのなかで明け、大阪・兵庫の感染拡大がますますその深刻さを増そうとするなかで暮れました。世界全体で450万もの人びとの尊い生命が失われ(2021年9月時点)、各地で医療崩壊が進行するとともに、ロックダウンや営業自粛要請等により無数の人びとが仕事と収入を失い深刻な困窮状態に陥っています。

本学学生も決して例外ではなく、社会福祉協議会等によるフードバンクの取り組みに数百名の学生が列をつくるなど、アルバイトの激減や保証人の家計急変等によって日々の食糧にすら事欠く事態が広がっています。

2020年度前半のキャンパスの閉鎖や、その後のオンライン授業の継続、「三密」回避のための活動制限等で、ヒューマン・サービス支援室の活動も大きく制約を受け、思うにまかせない状況がつづきました。しかしそのような中でも、学生コーディネーターをはじめ多くの学生諸君が、オンライン環境も最大限活用しながら工夫を凝らして、その活動をねばり強く継続してくれました。ボランティア活動支援センター2020年度活動報告書は、未曾有のパンデミックに直面しつつ、これに真正面から向き合いながら本学のボランティア活動の伝統を継承しようと奮闘する本センター及びヒューマン・サービス支援室のささやかな活動記録となっています。

本学には、関東大震災への支援活動をはじめ災害支援活動に携わってきた長きにわたる歴史があります。近くは1995年の阪神・淡路大震災を契機として、本学学生・教職員のボランティア組織としてヒューマンサービスセンターが発足。以来20年以上にわたり活動して参りました。これらの伝統を引き継ぎ、2016年4月にはボランティア活動支援センター及びヒューマン・サービス支援室が設立され、大学の責任のもと学生諸君のボランティア活動の支援を行なうだけでなく、学内のボランティア活動団体相互の連携をはかる態勢も整えられました。

未曾有のパンデミックという「災害」がつづき、多くの人びとが困難に直面しているいま、ボランティア活動支援センターとヒューマン・サービス支援室の本領がまさに問われようとしています。さまざまな制約を克服し、学生諸君と関係者の皆さんの安全確保を優先しながら、本学におけるボランティア活動の真髄をどのように発揮していくのか。その課題の大きさと困難さを自覚しつつ、着実に前進して参りたいと思います。

ヒューマン・サービス支援室長

関 嘉寛 (社会学部教授・学長補佐)



私たち関西学院大学ボランティア活動支援センター、ヒューマン・サービス支援室（以下、支援室）も2020年度は、新型コロナウイルスの感染拡大の影響を大きく受け、活動の多くを休止あるいはオンラインでおこなうことになりました。ボランティア活動は一般に対面活動を基本とするため、「ソーシャルディスタンス」を基本とする感染対策の下では、支援室が今までおこなってきた活動のほとんどが、再検討の対象となりました。また、キャンパスも事実上、ロックダウンされ、学生コーディネーター（以下、学生CO）たちも集まる機会を失いました。そのような意味で、支援室は存在意義を問われる1年となりました。

私たちは、個人化が進んだ結果として、個人の孤立や社会的紐帯の弱体化といった状況に対して、ケア（心遣いや関心）やつながりが必要であるという思いから、ボランティアが現代において必要であると感じていました。そして、そのような場面に大学生が関わることがケアやつながりの創出に対してだけでなく、参加した学生自身の学びにとっても重要であると考え、さらに関西学院大学のスクールモットーである“Mastery for Service（奉仕のための練達）”を体現する行為であると捉え、支援室を通してボランティアの啓発・普及・発展をサポートしてきました。

しかし、繰り返しになりますが、2020年度はこれらの信念や前提が成立しない状況でした。そのため、教職員や学生COたちは悩みながら、新しい活動の意義や形態を模索してきました。主に、オンラインを中心としたボランティア活動の紹介など感染対策に最大限の配慮を払い、可能な限りボランティアの機会を見つけようとしてきました。学生COもオンラインでのミーティングを丁寧に重ね、メンバー内でのコミュニケーションをはかってきました。その努力と工夫は、withコロナの時代においても重要な知見として役立つと思います。

このように、新型コロナウイルスの影響をまともに受け、どちらかというと防衛的な対応・活動が多くなってしまいましたが、その一方で、新しく始まったこともありました。まず、開設から4年間、専従コーディネーターとして支援室の基礎を作った成安有希さんに代わって、4月から小林真綾さんが着任しました。新しい視点で、支援室の活動をさらに活性化していただけるものと期待しています。また、副室長として李政元先生（総合政策学部）に加わっていただくことになりました。人員面以外には、「食べ残しNOゲーム」をNPOと共同で開催するなど、独自事業の可能性を検討し始めました。制限された環境の中ではありましたが、2020年度も支援室のミッションである関西学院大学内におけるボランティアの普及・活性化に資する活動ができたのではないかと考えています。

ただ、まだまだ不十分な点も多いことも痛感しています。2021年度には新たに5年間の目標を策定すべく現状の課題などを整理しているところです。この報告書を手にとったみなさまから、ご指摘やアドバイスをいただき、さらによりよい支援室のあり方を考えていきたいと思っています。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

ボランティアコーディネーター

岡 秀和



ボランティア活動支援センター、ヒューマン・サービス支援室が開設して5年目を迎える2020年度は、新型コロナウイルス感染症の拡大により当初の予定から大幅に活動内容を変えざるを得ない1年となりました。授業はオンライン中心、4月～6月は教職員も在宅勤務になり、ボランティアはおろか学生の皆さんと会うことも難しい日が続きました。しかし、私たちコーディネーターはこんな時こそ発想を転換して今できることをすべきだと考え、学生COと連携してボランティア体験談の共有や知識を学ぶ機会をオンラインで作るなど、工夫して活動を行いました。秋には「WebボランティアEXPO」「ボランティアweek」等を開催し、感染対策と学生たちが挑戦できる機会づくりが両立できるよう模索してきました。対面で行うボランティア活動の紹介ができない1年間でしたが、オンラインでできるボランティアの紹介や、オンライン相談ができる環境を作るなど、新たな試みを行ってきました。

また、2019年度で活動を終えた「熊本地震現地ボランティア」の参加者にインタビューを行いその内容をホームページで公開する、参加者同士の同窓会をオンラインで開催するなど、災害支援活動について、活動の意義を改めて振り返る機会づくりに取り組みました。

感染症の脅威から制約が多い1年になりましたが、むしろ新たなチャレンジをする機会と捉えて、歩みを止めることなく、発展を目指して取り組んでいきたいと思えます。2021年度もどうぞよろしく願いいたします。

ボランティアコーディネーター

小林 真綾



ボランティア活動支援センター、ヒューマン・サービス支援室が開室して5年が経ちました。私は2020年度よりコーディネーターとして着任し、上ヶ原・聖和キャンパスを担当しました。着任して間もなく新型コロナウイルスの影響により大学も休講、職員も在宅勤務という状況になり、学生と会うこともできず学生COとの挨拶もオンラインで行うというスタートでした。

2020年度のボランティア紹介については対面を伴う活動の紹介は行うことができませんでした。オンラインでの活動や関学生が所属するボランティア団体の紹介を行ったり、自宅からでも相談できるようオンラインでの相談対応を開始しました。形式は違えど例年行っている「ボランティアweek」などのイベントもZoomを活用して実施することができました。このような状況下でも学生の「何かしたい！」という前向きな姿勢がとても頼もしく、オンラインでのミーティング運営やイベントの実施など学生COとのミーティングを重ねながら自分たちにできる活動を継続して行うことができました。

これまで誰も経験したことのない状況に立ちながらも、支援室として取り組んだことのなかったものに挑戦してみたり、学生COとともに試行錯誤しながら成長できた1年でした。今年度の学びを活かし2021年度もさらに発展できればと思います。どうぞよろしく願いいたします。

2020年度学生コーディネーター 西宮上ヶ原代表

中川 令実 文学部3年



2020年を象徴するものとして、世界中の多くの人が新型コロナウイルスを挙げるでしょう。私たち学生は大学に通うことができなくなり、ボランティア活動の多くも止まりました。学生COも例外ではなく、オンライン活動を余儀なくされ今までの活動はほとんどできなくなりました。

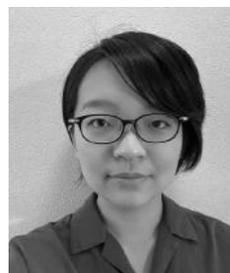
この状況になりまず私が初めに思ったことは、ボランティアの現場と学生をつなげる学生COがここで足を止めるわけにはいかないということです。その思いは今年1年を通してあり続けました。学生CO一人ひとりの「何かしたい」という思いがこれまで以上に強く見られ、自分たちが今できることについて考え、向き合いました。活動を模索する中で、新しい活動の形を見出すことができました。1年が経ち振り返ると、初めての試みに多く挑戦し、紆余曲折しながら進んだ2020年度は、今後に必要な大事な一歩であったと感じます。2021年度もなお、新型コロナウイルスの影響は続きそうです。それでも、学生COはボランティアコーディネーターとして、多くの人々の「思い」をつなげるために進みます。

最後になりますが、困難の多いこの時期を一緒に過ごし奮闘した学生COのメンバー、そして私たちの活動を支えてくれたすべての皆様に心よりお礼申し上げます。

2020年度学生コーディネーター 神戸三田共同代表

赤畑 清花 総合政策学部2年

井吹 未奈 理工学部2年



2020年度は激動の年でありました。新型コロナウイルスの感染拡大という未曾有の事態に陥り大きな影響を社会全体が受け、私たち学生COも思うように活動ができない1年でした。対面での活動は中止になり、オンラインでの活動に変更。オンラインでの活動には利点も欠点もありました。

利点としては手軽に企画やミーティングの実施・参加ができるということです。この利点を活かして、上ヶ原キャンパスのメンバーとの連携を積極的に行いました。合同でオンライン企画やミーティングを行い、よりヒューマン・サービス支援室全体の知名度アップに貢献したと思います。

しかし、実際に顔を合わせて話すよりも細かいニュアンスが伝わりづらくコミュニケーションを取りづらいといった欠点もあります。その様な中、三田キャンパスではメンバーが少人数であることを活かし、定期的にオンラインミーティングを実施することでメンバー同士の交流を前年度以上に図り、“今できること”を常に考えブログ（note）開設や学生COの名札ホルダーの作成などに取り組みました。

この1年を通して、私たちの団体は活動に制限が掛かっていても絶えず活動を続けようという前向きな姿勢を得ました。これは学生COとしての誇りだと思います。この誇りを持って今後も活動に取り組んでいく所存です。

ヒューマン・サービス支援室



1. ヒューマン・サービス支援室とは

学内における位置づけ

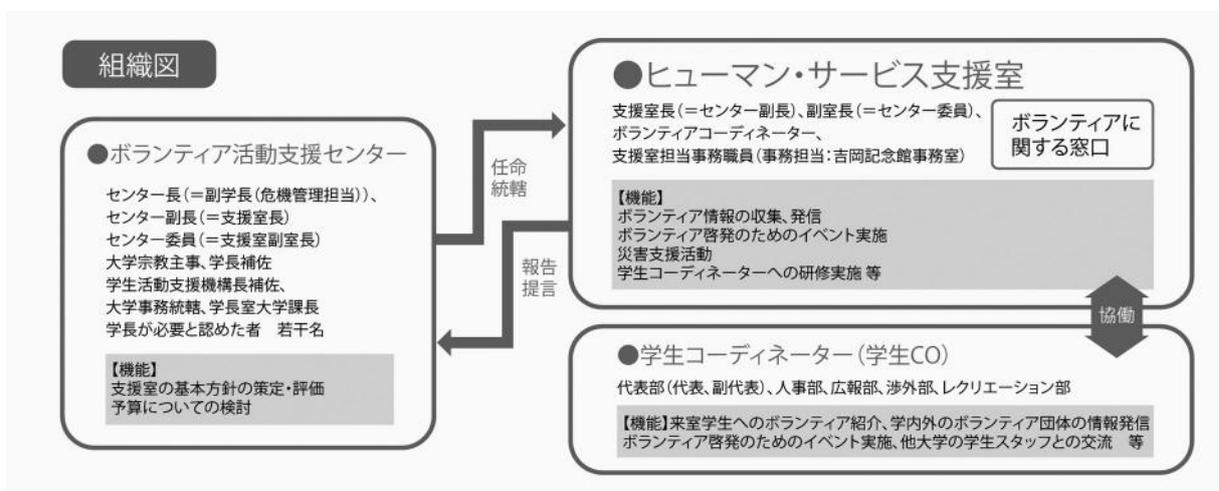
関西学院大学ボランティア活動支援センター、ヒューマン・サービス支援室（以下、支援室）は、大学内におけるボランティアセンターの役割を果たす部署として2016年4月に設置されました。

支援室の母体になったのは、1995年阪神・淡路大震災後に設立された関西学院ヒューマンサービスセンター（HSC）です。HSCでは、教職員と学生が協力して、さまざまなボランティアコーディネートを行っていました。

しかし、HSCは、関西学院大学内におけるボランティア活動の組織的な支援という点において課題を抱えていました。このような課題に対応するために、何年間かにわたる学内協議の末に、大学内に位置づけられた組織として支援室が開設されました。

支援室は、関西学院大学のスクールモットーである“Mastery for Service”を体現するボランティア活動を、さらに広げ、多くの学生が参加できる環境作りをミッションとしています。そのために、ボランティア情報の発信や共有を中心に、ボランティアをしたい学生とボランティアをしてほしいニーズをつなげていく活動を行っています。その過程では、活動している人びと、活動したい学生たちの自主性を尊重することを大切にしています。

また東日本大震災での大学の組織的な支援を再考し、発展させることもヒューマン・サービス支援室に課せられたミッションです。関西学院大学では、関東大震災時もボランティアを現地に派遣しているほど、災害救援において伝統があります。この伝統を受け継ぎ、災害が多発する現代社会において、被災者や被災地に寄り添う活動を組織的に行いたいと考えています。



2020年度の取り組み

設立から5年目に入る2020年度は、これまでの活動を見直し、より発展させるための工夫ができるポイントを探りました。

具体的な取り組みについては次の通りです。

重点事項	取り組み内容	活動内容
学生COとの協働	研修プログラムの発展	講義部分を動画で配信しました。それによってオンラインで行うミーティングではアイスブレイクやグループワーク中心に、より参加型の研修が実施できました。コーディネーションの研修ではワークシートを使うなど、新たなスタイルの研修を通じて、学生CO自身がオンラインでも相談対応ができる体制を整えました。
	日常活動の強化	毎週1回、専従COと西宮上ヶ原・神戸三田の代表部が合同でオンラインミーティングを行い、企画の進捗状況の共有等細やかにコミュニケーションを取りながら進めることができました。また、「自主企画」として有志メンバーによる今までにない新しい企画も沢山生まれました。
年間スケジュールイベントの見直し	オンラインでできる取り組みの確認、新規企画の検討	これまで実施してきた各企画の目的や意義を再考し、オンラインでできる取り組みや感染対策をした上でできる取り組みを検討しました。その結果、「WebボランティアEXPO」などの企画を通じて、学生たちが今できることを考えるきっかけづくりができました。
神戸三田キャンパス (KSC) 西宮聖和キャンパス (NSC) での活動	開室の継続・模索	KSCでは、2020年度も継続してII号館210教室で活動することができました。これまで週2回だった開室日程について、当初の計画では週3回以上を目指していましたが、新型コロナウイルス感染症への対応等のため実施できませんでした。NSCでは、まずは学生COの募集や単発イベントの開催などから認知度を上げ、活動拠点の検討ができるような環境づくりをしていきます。
	イベントの実施	オンラインの活用により所属キャンパスの壁を越えて参加できるイベントが多数実施できました。また、「ボランティアweek」ではKSC、NSC内でも企画を行うことができました。
	学生COの募集	KSCでは5名、NSCでは3名のメンバーが新たに加入し、既存メンバーと共に積極的に活動を行うことができました。
広報活動の強化	WEB上での情報発信	新型コロナウイルス感染症への対応のため例年行われている新入生オリエンテーションでのスピーチや『春ボラ』冊子の配布ができなかったことから、ガイダンス動画や『春ボラ』冊子のPDF版をHPで公開するなど、学生が各自でボランティアや学生COの情報にアクセスできるように工夫しました。また、SNSや学内ポータル(教学Web)の発信を大幅に増やしたり、「熊本地震現地ボランティア体験記」「ボラログ」をHPで公開するなどWEB企画を行いました。
災害対応の確立・準備	関係団体との連携の継続	令和2年7月豪雨や福島県沖地震発生の際、これまで連携してきた西宮市社会福祉協議会、認定NPO法人日本災害救援ボランティアネットワーク(NVNAD)と情報交換を行うことができました。しかし、新型コロナウイルス感染拡大防止のため現地支援に行けない状況で、遠方への支援では具体的な支援活動はできませんでした。また、オンライン化が難しい等の理由から、例年行っていた「災害ボランティア養成講座」の実施ができず、学生と関係団体との顔が見える関係性づくりという点で課題が残りました。
	学内外の関係部署・組織との連携	支援室が発行するニュースレター(vol.3)を通じて、これまでの災害支援の取り組みを発信しました。また、関西学院大学災害復興制度研究所主催の「復興・減災フォーラム」に熊本地震現地ボランティアに参加した学生が登壇する機会をいただきました。まだまだ連携先が少ないのが現状なので、引き続き各部署・組織と連携できるような模索します。

2021 年度の計画

2020年度の振り返りから、重点的に取り組む活動は次の通りとしました。

重点事項	取り組み内容
支援室の学内ネットワークの拡充	社会連携センター、国際連携機構（CIEC）、 実践教育支援室、災害復興制度研究所など関連部署との連携
神戸三田キャンパス（KSC） 西宮聖和キャンパス（NSC） での活動	学生団体やキャンパス事務室との連携
	ボランティアに関するイベントの実施
	開室場所の継続、開室日程の拡大（KSC）
	キャリアセンターとの連携（NSC）
学生COとの協働 （学内外へのアプローチの強化）	年間スケジュールに沿ったイベントのコロナ禍での開催方法を検討
	自主企画の支援
	学年企画の支援
学外組織とのネットワークづくり	各地域・地区の社会福祉協議会との連携
	西宮市内地域団体との関係性づくり
災害対応の確立・準備	関係団体との連携の継続・強化
	災害支援団体との関係性づくり
	講座やワークショップを通じた災害支援・防災・減災関連活動
	学生による自主的な災害支援・防災・減災関連活動の支援

2. ボランティアコーディネート

支援室の利用状況

4月中旬から夏休みまでの期間、本学事務室の窓口が閉鎖となり、支援室も閉室しました。秋学期以降は開室しましたが、対面を伴うボランティア活動の紹介は停止し、オンラインのボランティア活動や本学の学生が活動しているボランティア団体・サークルの紹介を行いました。また、オンライン会議ツールZoomやメールを用いてオンラインでの情報紹介・相談対応も行いました。

【西宮上ヶ原キャンパス】

月別来室者のべ数

(人)

月	ボランティア紹介	ボランティア相談	その他	合計
4月	0	0	1	1
9月	0	0	1	1
10月	2	0	1	3
11月	11	0	0	11
12月	9	0	0	9
1月	4	2	0	6
2月	5	0	4	9
3月	3	1	7	11
合計	34	3	14	51

【オンライン】

月別相談者のべ数

(人)

月	ボランティア紹介	ボランティア相談	その他	合計
4月	1	1	0	2
5月	0	1	0	1
6月	1	0	0	1
9月	0	1	1	2
10月	0	1	2	3
11月	2	0	0	2
12月	1	0	0	1
1月	3	1	0	4
合計	8	5	3	16

【神戸三田キャンパス】

月別来室者のべ数

(人)

月	開室回数	ボランティア紹介	ボランティア相談	その他	合計
9月	2回	0	0	2	2
10月	9回	8	1	6	15
11月	8回	2	1	1	4
12月	9回	3	0	1	4
1月	7回	0	0	3	3
合計	35回	13	2	13	28

【利用者内訳（Welcomeシート記入者分）】

*Welcomeシートとは、支援室に来室した学生に記入してもらっているシートで、興味があるボランティアのジャンルを✓してもらうことでボランティア紹介に活用しています。

(人)

キャンパス	西宮上ヶ原									神戸三田		西宮聖和	合計
	神	文	社会	法	経済	商	人間福祉	国際	経営戦略研究科	理工	総合政策	教育	
1年生	0	1	4	5	1	1	8	1	0	2	8	2	33
2年生	0	2	0	3	0	0	3	1	0	1	4	0	14
3年生	1	0	0	1	1	0	1	0	0	0	0	0	4
4年生	0	0	0	1	0	0	0	0	0	2	0	0	3
研究科	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
合計	1	3	4	10	2	1	12	2	1	5	12	2	55

*Welcomeシートを記入していない学生や、複数回来室した学生は1枚しかシートを記入していないケースがあるため、来室者のべ数と利用者内訳で人数が違ってきます。

*学生COは来室者数としてカウントをしていません。

外部団体からの情報提供数

支援室では、提供していただいたボランティア情報を17種類のジャンルに分けて紹介しています。ジャンルは、1つの情報に対して最大3つまで選択しています。

ジャンルごとの情報件数

(件)

子ども・青少年	子どもたち、中高生などに関わる活動（キャンプ、子ども食堂、子どもたちの工作サポートなど）	30
教育	主に教科指導（勉強）に関わる活動（学校内での児童・生徒支援事業、塾での勉強支援、学習支援活動など）	11
福祉（障がい）	障がいがある方の余暇活動の同行、支援施設での活動など	8
福祉（高齢）	高齢者と関わる活動（介護施設での活動など）	1
医療・保健	献血、病院でのボランティア活動、心に病を持つ人への支援活動など	0
国際	国内外問わず、海外の方と関わる活動（海外での支援活動、国内での日本語教育支援活動など）	9
環境	環境保護・保全に関わる活動（植林活動、ごみゼロ運動、清掃活動、水質保全活動など）	17
動物	動物保護、生態系の再生・保全活動など	0
芸術・文化	美術館・博物館での活動、音楽祭のサポート、地域文化の保全活動など	5
スポーツ	スポーツに関わる活動	4
災害支援	防災活動、災害時の救援・支援活動、災害記念式典の運営など	12
まちづくり	地域住民と関わる活動、地域PR活動、まちあるきの運営など	15
祭り・イベント	お祭りや行事の運営、お手伝いなど	6
人権	難民・難病がある方の支援や権利擁護活動など	3
スタディツアー	参加者と現地の人々の相互理解や体験学習を目的とする活動（平和学習、文化体験など）	3
学内団体	大学登録団体、学生連盟加盟団体、所属している学生の8割以上が本学の学生orミーティングを本学のキャンパス内で行っている団体	1
その他	上記にあてはまらないボランティア活動（講演会、勉強会、ワークショップを含む）	37
	総計	162

月別情報件数

4月	14件	
5月	0件	
6月	13件	
7月	9件	
8月	6件	
9月	4件	春学期合計 46件
10月	12件	
11月	9件	
12月	9件	
1月	2件	
2月	12件	
3月	11件	秋学期合計 55件
総計	101件	

4. 災害支援・防災啓発

2020年度、令和2年7月豪雨水害や福島県沖地震などの大きな災害が発生しました。ヒューマン・サービス支援室としては災害発生時の支援検討フローに基づき、学内外から情報収集を行い、最新情報が得られる全国社会福祉協議会のホームページへのリンクを支援室ホームページに掲載する、被災地域で活動を検討している学生に対してコロナ禍での活動に関する注意喚起をするなどを行いました。各災害ボランティアセンターが県外からのボランティア募集をしていないことなどから、直接的な支援が実施できなかったため、今後同様の災害が起きた際に私たちができることは何なのか、学生の皆さんと引き続き考えていきたいと思います。

また、2016年度～2019年度に行った熊本地震現地ボランティアの振り返りと整理、成果の発信を行いました。派生して、有志の学生による企画（コロナ禍と防災）の広報協力を行いました。加えて、これまでの活動経験から災害ボランティア参加希望者に向けたガイドペーパー（災害ボランティアをするには？）を作成しました。具体的に実施した内容については次の通りです。

熊本地震現地ボランティア体験記～災害支援ボランティアの可能性～

熊本地震現地ボランティア体験記 ～災害支援ボランティアの可能性～



掲載 ヒューマン・サービス支援室HP上に特集ページを作成
掲載者数 学生16人、卒業生4人

内容 ボランティアコーディネーターから熊本地震現地ボランティア活動参加者へZoomもしくは文章形式でインタビューを行い、内容を特集ページに掲載

- ・参加理由、きっかけ
- ・活動内容
- ・参加した感想
- ・活動参加前後での変化
- ・今に活着ていること
- ・ボランティアをする上で大切なこと
- ・学生だからこそできること、できたこと
- ・大学生へのメッセージ

目的 災害支援ボランティアががれき撤去等の力仕事だけではないこと（人との交流などがあること）を知ってもらう。また、自分と同じ学部や学年の学生の活動体験を読むことで「自分もやってみようかな」と思えるきっかけにする。自分にもできることがあるという自信を持ってもらう。

熊本地震現地ボランティア参加者 Zoom 同窓会



日程 2020年10月10日（土）13：00～15：00

場所 Zoomによるオンライン開催

参加者数 学生10人、卒業生2人、職員1人

内容

- ・参加した活動回のメンバー同士での振り返り
- ・参加回をまたいだ意見交換、情報交換
- ・熊本の現状の共有

目的 熊本地震現地ボランティアの経験を通じて感じたことやその後の変化を共有する。参加回をまたいだ交流を通じて互いのことを知り、ボランティアへの思いなどを語り合う。また、コロナ禍で自分たちができることを考え、次の行動につなげる。

コロナ禍と防災



日 程 2021年3月21日(日) 13:30～15:30

場 所 Zoomによるオンライン開催

参加者数 学生・社会人 合計29人

主 催 KG熊本地震現地ボランティア有志

共 催 ヒューマン・サービス支援室

内 容

- ・講演会
熊本地震現地ボランティアでお世話になった方々へのインタビュー内容の共有
- ・パネルディスカッション
ゲストスピーカーによるパネルディスカッション
永田 忠幸氏(益城町 農家、語り部)
山北 翔大氏(熊本学園大学社福災害学生ボランティアグループ)
- ・森 美月氏(関西学院大学人間福祉研究科M2)
- ・参加者同士の交流会
- ・全体での感想共有

目 的 日本では毎年多くの災害が起こっているが、直接的な被災経験が無い人にとっては、記憶から離れていくという現状がある。災害を他人事にしないためにも、自ら防災について学び考える場を提供することで、災害を忘れない、また参加者が学びを次なる行動へつなげる。

災害ボランティアをするには？



掲 載 ヒューマン・サービス支援室HP上にPDFデータ掲載

様 式 印刷版を支援室前のチラシラックへ配架

内 容 PDF 2ページ (A4版、両面カラー)

- ・災害ボランティアの参加方法について
- ・災害ボランティアセンター、ボランティアバス
- ・活動参加の注意点
- ・地震の安全確保を最優先に、自己完結、自己責任(準備を万端に！)
- ・活動時の心構え
- ・自ら考えて主体的に行動しよう!、無理をしない、被災地、被災者に寄り添う
- ・活動参加後にできること
- ・関心を持ち続けて、できることを考えよう
- ・現地に行かなくてもできること
- ・募金活動

目 的 「災害ボランティアをしてみたいが、どのように始めたら良いかわからない」「注意すべき点を教えてほしい」との疑問に対してこれまで口頭もしくは文章形式で説明してきたが、写真やデザインを活用したまとめペーパーを発行することでより多くの学生、教職員に災害ボランティアの参加方法を周知する。

5. SDGs 啓発、学生所属団体支援

2020年度は新たな試みとして、SDGs啓発活動「食べ残しNOゲーム オンライン体験会」を実施しました。この体験会はNPO法人DeepPeopleが提供しており、ゲームを通じて食品ロス問題と向き合うことができるものです。また、これを機に支援室として関西SDGsプラットフォームの教育分科会『ナレッジラボ』へ加入しました。社会課題の解決に向けた取り組みの実践という観点から、ボランティアと同じくSDGsの活動に関学大生が関わることは非常に重要だと考えています。

また、コロナ禍で活動の継続やメンバー募集に苦戦する、関学大生が所属するボランティア団体の支援にも力を入れました。10月には、コロナ禍での活動状況や取り組みの工夫についてアンケートをとり、各団体へ共有しました。3月には、新メンバー募集の工夫や活動継続のために何をすべきか考えるためのワークショップを実施しました。

食べ残し NO ゲーム オンライン体験会



- 日 程** ① 2020年10月8日（木）18：30～20：00
② 2020年11月25日（水）18：30～20：00
③ 2021年3月5日（金）13：30～15：00
- 場 所** Zoomによるオンライン開催
- 参加者数** 学生25人（①13人、②3人、③9人）
- 共 催** NPO法人DeepPeople
- 内 容**
- ・食べ残しNOゲームについて知る
 - ・ゲーム体験、開発に至るまでのストーリー
 - ・食品ロスについて知る
 - ・数字で見る食品ロス、解決に向けて行っていること
 - ・食品ロス削減活動の紹介
- 目 的** 日常生活でできる社会貢献の取り組みの例として、食品ロス問題とその削減について考えるきっかけとする。また、コロナ禍でできるボランティア活動の事例を知る機会とする。

With コロナで新メンバー募集、どうする？（ボランティア団体向けワークショップ）



- 日 程** 2021年3月12日（金）13：30～16：00
- 場 所** Zoomによるオンライン開催
- 参加者数** 学生13人、教員1人（9団体）
- 講 師** 川中 大輔 氏（シチズンシップ共育企画 代表 / 龍谷大学 講師）
- 内 容**
- ・よびこみ × まきこみの考え方について
 - ・「らしさ」「強み」を活用した新歓の検討
 - ・事例共有
 - ・“ボランティアマネージャー”としての考え方 等
- 目 的** 10月に実施した関学大生所属団体のアンケートで、「効果的な広報（新メンバー入会アプローチ）が分からない」「ボランティア団体向けの勉強会を実施してほしい」という要望があった。そうした経緯を踏まえて、対面が制限される中でどのようなメンバー募集のPRをすることが効果的かを考える機会とする。

学生コーディネーター

1. 学生コーディネーター（学生CO）とは

学生COは教職員と協働し、「関西学院大学のボランティアの活性化」を目的として活動している団体です。学生COの活動は大きく2つあります。

①ルーティン活動

支援室を訪れた学生とお話しながらその人に合ったボランティア情報の紹介（コーディネーション）をします。学生COそれぞれが授業の空き時間を使って実施しており、コーディネーションの他にも、ボランティア情報の整理やイベント準備なども行います。
※2020年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため対面でのルーティン活動は実施できませんでした。

②イベントの企画・実施

関学生にとってボランティアがより身近なものとなるように、様々なイベントを企画・実施しています。ボランティアの啓発やボランティアを始めるきっかけ作りなどを目的として楽しいイベントを企画しています。

【2020年度年間目標】

2020年度の目標は「Volume Up!」としました。ヒューマン・サービス支援室での活動を、そして私たち学生CO一人ひとりがそのスキルを拡大させていきたい、という想いからこの目標を設定しました。またVolume Up!の具体的な指標として、認知度Up!・個人のレベルUp!・仲の良さUp!の三つの項目をさらに設定しました。

2019年度の活動の中で課題として、認知度不足、コーディネートの際のボランティアへの知識不足、そして学生CO同士がイベントの中で連携をうまく取り切れていないことが挙げられました。これらの課題を解決するために、目標の中でイベントの来場者を増やすこと、ボランティアに参加して知識をつけること、ミーティングへの出欠率を高めて学生CO同士での連携を強めることが必要であると考えました。

結果としてイベント来場者を増やすこと、ボランティアに参加することは新型コロナウイルスによる影響のため設定した目標数値を達成することはできませんでしたが、こうした目標へのイメージが学生CO同士で共通のものになっていたため「Volume Up!」へと臨機応変に活動することができました。

2020年度はメインの活動であったコーディネートが出来なくなるなど、今までに例を見ない年になりましたが、その中でも学生の中での活動への気持ちから様々なイベントが生まれるなど、オンライン環境に対応した新たな学生COをスタートすることができた1年でした。

2. 学生コーディネーターの活動

所属人数、年間活動スケジュール

所属人数 (2020年10月31日時点)

(人)

キャンパス	西宮上ヶ原								神戸三田		西宮聖和	合計
	神	文	社会	法	経済	商	人間福祉	国際	理工	総合政策	教育	
1年生	0	1	1	2	0	1	1	2	1	0	2	11
2年生	0	4	4	5	2	1	1	1	1	5	0	24
3年生	0	2	2	2	1	0	1	3	0	2	1	14
4年生	0	3	2	0	0	1	1	0	1	2	0	10
合計	0	10	9	9	3	3	4	6	3	9	3	59

日 程	内 容	場 所・ツール
4月初旬	新入生オリエンテーション登壇、「春ボラ」配布 【新型コロナウイルス感染症の影響で中止】	西宮上ヶ原キャンパス、神戸三田キャンパス、西宮聖和キャンパス 各教室等
4月6日(月)	KG LIFE 2020 勧誘ブース出展 【新型コロナウイルス感染症の影響で中止】	西宮上ヶ原キャンパス 銀座通り
4月9日(木)、 10日(金)、16日(木)、 17日(金)、24日(金)	ボランティア EXPO 開催予定日 【新型コロナウイルス感染症の影響で中止】	西宮上ヶ原キャンパス 吉岡記念館ラウンジ 神戸三田キャンパス 第二厚生棟学生ラウンジ 西宮聖和キャンパス ラーニングcommonsリプラ2階
4月～5月	Web 新歓 (Zoon 生配信、勧誘チラシ作成、 新歓 Twitter 開設、HP 編集 等)	オンライン
6月5日(金)	ボラ☆チャットの会	オンライン (Zoom)
6月～7月	学生 CO ネームタグ製作	
6月～12月	ボラ紹介動画製作	
7月11日(土)	note 「徒然 CO 日記」開設	note
7月～8月	ボラツアー 【新型コロナウイルス感染症の影響で中止】	各ボランティア先
8月27日(木)	西宮オンライン公民館 ゲスト出演	オンライン (Zoom)
8月27日(木)、 10月3日(土)、 11月7日(土)、21日(土)	ボラ☆クイズ大会	オンライン (Zoom)
9月3日(木)、 4日(金)、10日(木)、 11日(金)	Web ボランティア EXPO	オンライン (Zoom)
9月17日(木)	防災の日企画～遊ぶ、知る、考える、活かす～	オンライン (Zoom)
10月1日(木)、 3日(土)、6日(火)、 12日(月)、14日(水)	学生 CO 新歓：活動説明会	オンライン (Zoom)
10月中旬	出張ボラセン 【新型コロナウイルス感染症の影響で中止】	西宮上ヶ原キャンパス旧学生会館ラウンジ前
10月17日(土)、 31日(土)	基礎研修	オンライン (Zoom)
10月30日(金)	オープンチャット「三田ボランティア交流会」開設	LINE オープンチャット
11月～1月	サクッと学べる初心者防災	SNS
11月30日(月) ～12月4日(金)	ボランティア week ・学生 CO 企画「教えて！聞かせて！キミのこと！」 「聞こう！話そう！みんなのこと！」 ・支援室企画「ボランティアの魅力を聞いてみよう！」	西宮上ヶ原キャンパス 西宮聖和キャンパス 神戸三田キャンパス 各キャンパス内全域 オンライン (Zoom)
12月19日(土)	学生 CO 総会	オンライン (Zoom)
1月	ボラログ公開	HP、SNS
1月22日(金)	関西学院高等部3年生特別プログラム登壇	関西学院高中部 礼拝堂
2月25日(木)	コーディネーション研修	オンライン (Zoom)

情報発信

学生COは、ボランティアに関する啓発イベントの参加者募集や日常活動の発信のため、ヒューマン・サービス支援室とは別で、次の通り SNS アカウントを所有して情報発信をしています。そのほか、神戸三田キャンパスでは LINE のオープンチャットを用いて学生同士で交流できる場を設けています。

SNS (Twitter、Instagram、note)、YouTube



学生 CO WEB 広報チラシ

学生COとは？

学生コーディネーターの略称。
開学のボランティア活動を盛り上げるために
西宮上ヶ原キャンパスと神戸三田キャンパスで活動中！
例えば...
1年間を通してボランティアを紹介（コーディネートと言います）
したり、様々なイベントを企画しています！

関西学院大学 ボランティア活動支援センター ヒューマン・サービス支援室 学生コーディネーター
@hsyu.cocof@gmail.com

学生COの魅力を紹介

上ヶ原COは40人、三田COは7人で活動しています。
学年問わず仲がよいです♪プライベートでもご飯に行きます！

Peaceful
安心

大学から愛顧されて活動しています！大学直轄の団体です。なので、何かあってもすぐに職員さんに相談できます。

Exciting
楽しい

Active
活動的

イベントの企画から実施まで、すべて学生COが主体となって行います！

学生COの一年間

スタート
登録
新入生に配布している「家のボランティア体験記」を作成しています！

ボランティア EXPO
開学最大のボランティア国際紹介イベントです。

新入生歓迎会 基礎研修
中央正生でお集り前を食べながら、ゆっくりお話しをしましょう♪
※基礎研修は参加必須

変遷仕授与
基礎研修を受け取って、これであなたも学生COの仲間入り！！

ゴール！！

学生CO総会
1年の締めくくり！みんなで1年間をしっかりと振り返って、来年度のスタートに備えよう！1年間振り返りまでしたあ

ボランティアWeb
1週間、学生COの運営のボランティアを全力で盛り上げます！

出張ボランティアセンター
学校の運動会期である夫津霊堂霊園に於いて開学生の募金活動場所へと出張します！！

ボランティアツアー
夏休みに学生COが1校学生と一緒に様々なジャンルのボランティアに参加します。

※今年度は開催できていないイベントがあります。また今後の予定も不定です。

活動報告

春ボラ



掲載様式 新入生へ配布
 教学 Web（学内ポータル）にて PDF 版を公開
 PDF 46 ページ（A4 判、カラー 10P、モノクロ 36P）
 印刷部数：6,200 部

掲載団体 ヒューマン・サービス支援室、学生 CO、その他 32 団体

- 学生連盟加盟団体（1 団体）
 - ・ 日本手話サークルはなまる
- ・ 関西学院大学 宗教総部
 - ・ CORs
- 大学登録団体（12 団体）
 - ・ アイセック関西学院大学委員会
 - ・ 学習ボランティアサークル ALIVE
 - ・ 関西学院上ヶ原ハピタット
 - ・ ほっとコミュニティ
 - ・ K.G.BrainHumanity
 - ・ 子どもの友
 - ・ 聖和キャンパス学生 YMCA
 - ・ CLUB GEORDIE
 - ・ Eco-Habitat 関西学院
 - ・ SSV 関西学院
 - ・ フィリピンの女性と子どもと一緒に歩む学生団体くじら
 - ・ J-FUN ユース K.G.
- 学内団体（9 団体）
 - ・ ivusa 兵庫西宮クラブ
 - ・ 学生国際協力団体 CUE
 - ・ Salus Aqua
 - ・ Bridge for Children, KGU
 - ・ 国内ボランティアサークルつなぐ
 - ・ 関西学院大学 YMCA 神戸三田キャンパス
 - ・ 関西学院大学 YWCA
 - 学外団体（10 団体）
 - ・ 関関 COLORS
 - ・ NPO 法人リーダーズカフェ/宝塚つばめ学習会
 - ・ どんぐり文庫
 - ・ 教学の森カウンセラー会
 - ・ PENS
 - ・ 西宮地区 BBS 会
 - ・ NPO 法人神戸ライフセービングクラブ
 - ・ 西宮まちづくり連携プロジェクト
 - ・ NPO 法人 good!
 - ・ 特定非営利活動法人あっとすくーる

内容 関学生が所属するボランティア団体の紹介、連絡先など情報をまとめて掲載した情報誌

目的 ① 支援室や関学生が所属するボランティア団体について知ってもらう
 ② 支援室に来てもらう
 ③ ボランティア EXPO に参加してもらう
 ④ 学生 CO の Instagram をフォローしてもらう

ボラ☆チャットの会



日程 2020年6月5日（金）18：30～20：45

場所 Zoomによるオンライン開催

参加者数 学生CO 14人 / 職員 2人

内容 自身のボランティア体験談（初めて参加したボランティア活動、ボランティアをやり始めたきっかけなど）を共有し、感想を話し合う会

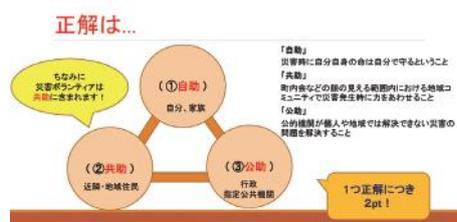
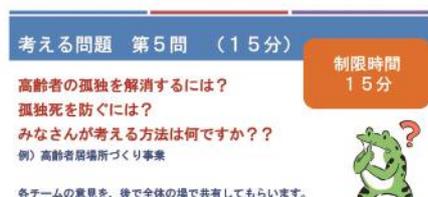
目的 学生CO同士で、これまでの体験から何を感じてきたのかを共有することで、相互理解を深める。コロナ禍でコミュニケーションがこまめにとれない日が続くため、気軽に話すことができる場を作る。

ボラ紹介動画



- 掲載式** 学生 CO Google ドライブ
 (動画) MP4 1分30秒～2分程度の動画7本
 (情報誌) PDF 7～13ページ7種類
 (ボラ情報メモ) Word 3～21ページ7種類
- 内容** ボランティア情報を下記のジャンルごとにまとめた動画と情報誌を作成
 スポーツ、福祉、子ども・青少年、国際、災害支援、環境、まちづくり
- 目的** 対面活動が止まりボランティア情報に触れる機会が少なくなってしまうため、WEB上からも情報を得られる動画や情報誌を作成・閲覧することで学生CO自身がボランティアの知識・理解を深める。

ボラ☆クイズ大会



- 日程** ①2020年8月27日(木) 13:30～15:00
 ②2020年10月3日(土) 10:30～12:00
 ③2020年11月7日(土) 10:30～12:00
 ④2020年11月21日(土) 10:30～12:00
- 場所** Zoomによるオンライン開催
- 参加者数** ①学生CO 18人 / 職員2人
 ②学生CO 11人 / 職員1人
 ③学生CO 10人 / 職員1人
 ④学生CO 14人 / 職員1人
- 内容** クイズを通じて、ボランティアや社会問題について楽しみながら知り、一緒に考える
 初級～上級問題とみんなで考える問題で構成し、班対抗で開催
 ①ボランティアコーディネーション編
 ②貧困編
 ③福祉編
 ④災害編
- 目的** ボランティアやそれに関連する社会問題に関して学ぶ。知識や理解を深めることで、今後の活動や自身の行動に繋がられることは何かを考える。

Web ボランティア EXPO



- 日 程** 2020年9月3日(木)、4日(金)
10日(木)、11日(金)
各日 10:00～11:30、13:00～14:30
16:00～17:30
- 場 所** Zoomによるオンライン開催 / 動画配信
- 参加者数** 学生(延べ) 106人
- 出展団体** ヒューマン・サービス支援室、学生CO、その他20団体
- 大学登録団体(8団体)
 - ・学習ボランティアサークルALIVE
 - ・関西学院上ヶ原ハビタット
 - ・ほっとコミュニティ
 - ・K.G.BrainHumanity
 - ・CLUB GEORDIE
 - ・Eco-Habitat関西学院
 - ・SSV関西学院
 - ・フィリピンの女性と子どもと一緒に歩む学生団体くじら
 - 学内団体(6団体)
 - ・学生国際協力団体 CUE
 - ・日本手話サークルはなまる
 - ・CORs
 - ・Bridge for Children,KGU
 - ・関西学院大学 YMCA 神戸三田キャンパス
 - ・関西学院大学 YWCA
 - 学外団体(6団体)
 - ・関関 COLORS
 - ・NPO 法人リーダーズカフェ / 宝塚つばめ学習会
 - ・教学の森カウンセラー会
 - ・PENS
 - ・西宮地区 BBS 会
 - ・一般社団法人 new-look

- 内 容** 毎年開催している関学大生が所属するボランティア団体の合同説明会。今年コンセプトは「部屋着でボラ充！」。春学期に予定していた対面でのEXPOが中止となったため、夏休みにZoomを用いて開催。ブレイクアウトルームを活用し、各団体からじっくり話を聞く場を作った。また、学生COと団体で「座談会」をZoomで行い、その模様を動画にして配信した。
- 目 的** 新入生は、入学早々登校できず、「居場所」づくりに苦戦していると考え、この企画で「出会い」の場を提供し、大学再開時の学生のボランティア参加率を上げる。また、オンラインで複数の団体と一つのイベントを開催することで、団体間の連携やコミュニケーションを深める。

防災の日企画～遊ぶ、知る、考える、活かす～

『避難誘導に協力しよう！』ゲーム
大きな災害が起きると学校などの施設が『避難所』になります。
そんな時に、普段学生COとして活動している私たちにもできることがあります。
今日は『避難誘導』をテーマにしたゲームで、災害時の避難所や地域の様子を体験してみましょう！

ゲームを通じて、災害時の避難所にはどんな課題や問題があるか、自分たちには何が出来るのかを、考えてみてください！



- 日 程** 2020年9月17日(木) 10:00～11:30
- 場 所** Zoomによるオンライン開催
- 参加者数** 学生CO 13人 / 職員 1人
- 内 容**
 - ・アイスブレイク (ナマズの学校)
 - ・ヒューマン・サービス支援室の成り立ちについて
 - ・防災ゲーム「避難誘導に協力しよう！」
- 目 的** (阪神淡路大震災を契機として誕生した) 学生COの起源を知ること、自分たちにはできることは何かを考え直すきっかけを作る。学生CO同士で楽しく一緒に学ぶことで、仲の良さUPにつなげる。オンライン企画を開催することで、気付いたことや改善点などを今後のオンライン企画に活かす。

サクッと学べる初心者防災



掲載様式	学生 CO の SNS に画像と文章で掲載 画像データ（各更新で5～10枚程度）、文章 Instagram：更新9回（告知投稿含む） note：更新7回
内容	「防災グッズ編」 携帯用、持ち出し用、備蓄用に分けて具体的に必要と思われる物品と、推奨される備蓄量等を紹介。 「避難所編」 避難の心構えや避難所の種類別解説、キャンパス内の避難場所などを紹介。
目的	日常生活の中で防災について考えるきっかけを提供する。新型コロナウイルス感染防止対策を踏まえた準備として必要なことを知ってもらう。

ボランティア week



日程	① 2020年11月30日（月）～12月4日（金） ② 2020年12月1日（火）18：30～20：00 ③ 2020年12月4日（金）18：30～20：00
場所	① 西宮上ヶ原・西宮聖和・神戸三田 各キャンパス内全域 ②③ Zoomによるオンライン開催
参加者数	① 248人（上ヶ原：141人、聖和：31人、三田：76人） ② 4人（学生CO 4人） ③ 14人（一般学生1人、学生CO 13人）
内容	ボランティアを知るきっかけを作ったり、ボランティアとはいったい何か？ということを深めるために毎年開催しているイベント。今年のコネクトは「るんるん、learn！～ひと・まち・ところを元気に～」。 ①学生CO企画「教えて！聞かせて！キミのこと！」 学生COが学内をまわり、一般学生に話しかける。一般学生には、ソーシャルディスタンスの目安と言われる「2m」がどれくらいだと思うか、自身の感覚で紙テープを切って教えてもらう。それにより人によって違う多様な感覚があることを体験的に知ってもらい、ボランティアも同様に多様な価値観や思いから成り立っていることを伝える。 ②支援室企画「ボランティアの魅力を知ろう！」 ボランティアの魅力や選び方について、ボランティア経験が豊富な学生から体験談を聴くことで考えるきっかけにする。 ③学生CO企画「聞こう！話そう！みんなのこと！」 『ボランティアの魅力』『有償ボランティアについて』等のテーマで意見を出し合い様々な考えがあることを知る。自他双方の考え、どちらも大切なことだと気付く機会にする。
目的	ボランティアは「気軽にできる」「人それぞれの価値観や感覚の違いがあってもいい」ことを知ってもらう。ボランティアに関心を持ってもらい、支援室への来室やオンライン相談に繋げる。

学生CO総会



- 日 程** 2020年12月19日(土)
 [午前の部] 10:00～12:00
 [午後の部] 13:00～15:00
- 場 所** Zoomによるオンライン開催
- 参加者数** 学生CO 50人 / 職員 2人
- 内 容** 代替わりを兼ねた1年間の総括をする会。また、総会に向けて1年間の活動の総まとめとなる資料「2020年度学生CO活動報告書」(A4判92ページ)も作成した。
- ・今年1年を振り返ろう—企画1分報告—
 - ・アイスペイク
 - ・次期体制報告
 - ・年間目標決め
 - ・ワークショップ:自分の特徴・強みを知ろう!
 来年をもっと素敵な1年にしよう!
- 目 的** 学生CO全員で1年間の成果や課題を確認し、来年度に活かすことを考える。

ボラログ



- 掲 載** ヒューマン・サービス支援室HP
 学生CO SNS (Twitter、Instagram)
- 様 式** PDF 49ページ (A4判、フルカラー)
 SNS更新時は画像データ (ボランティア体験ごとに1～2枚)
- 内 容** ボランティアに参加した学生の感想を集めて編集した情報誌。
 7種類のジャンル、計15種類のボランティア体験談を掲載。
- ・活動名
 - ・実施場所
 - ・活動時間
 - ・ボランティアジャンル
 - ・費用
 - ・オススメポイント
 - ・参加した理由
 - ・活動内容
 - ・雰囲気、感じたこと
- 目 的** ボランティアの体験談や写真などを見ることで活動を疑似体験し、学生がボランティアへ関心を持つことを目的とする。また、新型コロナウイルス感染症の収束時に具体的な行き先を考える際に役立ててもらおう。

3. 研修

ヒューマン・サービス支援室では、活動の中核にある学生COがコーディネーターとして十分なスキルを発揮するために、研修を行っています。2020年度は10月に基礎研修、2021年2月にコーディネーション研修をオンラインで行いました。

基礎研修

- 日 程** 2020年10月17日（土）、31日（土）13：00～15：00
※どちらか1日は必ず参加。やむを得ず欠席の場合面談を行い、研修内容を伝えた。
- 場 所** ①オンデマンドによる動画受講 / ②Zoomによるオンライン開催
- 参加者数** 44人（うち、新メンバー 20人）
※2日間合計。基礎研修に参加できなかった新メンバー2人には面談を実施。
- 内 容**
- ①講義形式の動画2本を配信。Zoom研修の日までに受講することを必須とした。次の通り、基礎的な内容を理解するための構成とした。
 - ・ボランティアとは？ボランティアコーディネーターとは？【10分11秒】
ボランティアの要素、語源、する理由、魅力
コーディネートの意味、対等につながるための関心、コーディネーターの8つの役割
 - ・ヒューマン・サービス支援室と学生コーディネーターの歴史と役割【14分8秒】
大学ボラセンの存在意義、ヒューマンサービスセンター（HSC）の成り立ちと活動
ヒューマン・サービス支援室の成り立ちと活動・役割、組織体制
学生COの役割、意識すべきポイント（一体感、自主性、協働）
 - ②新メンバー、現役メンバーがオンライン上で集い、次の通り、学生CO同士が互いのことを知り協働を実現するための内容で構成した。
 - ・アイスブレイク
あだ名付けゲーム、自己紹介、知ったか映画研究会
 - ・ワークショップ
基礎研修動画の感想共有、学生COが活動する意義・集団で活動する理由
集団で活動する中で大事なこと・気を付けたいこと
対話＝聴く×話すを実現するために何が大切か
 - ・まとめ
多様性・相互理解について、対話・雑談・相談の重要性
- 目 的** 新たに入会した学生COを主たる対象とした新人研修。ボランティアコーディネーターの重要性と基本的な知識及び支援室との関係など基本的な事柄を理解する。また、他者との協働のために必要なこと、自分ができることが何かを主体的に考え、多様性を理解し相手を尊重したうえで対話ができるようになることを主眼に置いた。

Kwansei Gakuin University

1回目のブレイクアウト（5分間）

【新メンバー】
基礎研修動画（2本）の感想
➡知れたこと、気になったこと、やりたいこと等

【本日のみ参加メンバー】
学生COが個人ではなく集団で活動するのはなぜ？
➡「大学の組織だから」「団体だから」などの使目的な意味合いではなく、強みや弱みを認め
てなぜ一緒にやっているかを考える

【17日も参加したメンバー】
「聴く×話す（対話や雑談）」はどのようにすれば実現できる？
➡全体MTG、部課や実行委員等のMTG、1対1で話すとき、遊ぶ会など具体的な場面をイ
メージ・共有して返せる




コーディネーション研修

日 程 2021年2月25日（木）13：30～15：30

場 所 Zoomによるオンライン開催

参加者数 34人

内 容 ・講義

対等につながるとはどういうことか、コーディネーションの基本的流れ、ポイント、ボランティア保険

・ロールプレイ

好きなもの紹介

「春ボラ」を用いたコーディネーション

目 的 オンラインで活動せざるを得ずほとんどできなかったボランティアコーディネーションについて、そのやり方や手法、工夫を改めて学び、実際に体験（ロールプレイ）することで2021年度の一般学生対応を全員が自信をもってできるようになる。自分ができることとできないこと、自身の強みや持ち味に気付き、主体的にコーディネーションに取り組むきっかけとする。

Kwansei Gakuin University

実際にコーディネーションしてみよう！

①Aさん⇒Bさん

7分間でボラ紹介（Cさん見学）

3分間で良かったこと、難しかったことと改善策話す

②Bさん⇒Cさん

7分間でボラ紹介（Aさん見学）

3分間で良かったこと、難しかったことと改善策話す

③Cさん⇒Aさん

7分間でボラ紹介（Cさん見学）

3分間で良かったこと、難しかったことと改善策話す

今日は練習なので、

春ボラ掲載団体からその人に
ぴったりの団体を探そう！



4. 来年度に向けて

2021年度学生コーディネーター 西宮上ヶ原・西宮聖和代表
法学部3年 墨谷 遼介



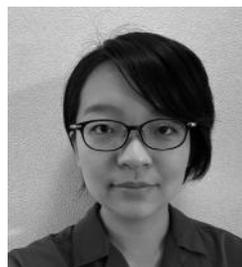
2021年度学生コーディネーターの上ヶ原・聖和キャンパス共通代表を務めさせていただきます、法学部政治学科3年の墨谷遼介です。

2020年度から続く新型コロナウイルスの影響で学生COの活動も大きく制限される中、今年度は新たに24名もの新メンバーが加わり、総勢65名の非常に大規模な団体となりました。2021年度で設立6年目を迎えるヒューマン・サービス支援室の新たなスタートにおいて、これほど多くのメンバーに恵まれたことを大変嬉しく思っております。

現状については学生COとしての活動はおろか、大学生活もまともに送れない毎日が続いており、支援室に足を運んでくれる学生と交流できる機会も少なくなっています。このような中でも学生COは様々な工夫を凝らしてイベントを実施し、その度にやはりコロナ禍においても挑戦できる機会を求めている学生が多いことを実感しました。

2021年度は「Be ボラフルエンサーズ！」という年間目標のもと、コロナ禍でももっと多くの学生にボランティアについて知ってもらおうと積極的な活動をしていきます。また、年間目標を軸に個人目標や部署目標も設定し、メンバーそれぞれも自覚を持ったうえで様々なチャレンジをしていく所存です。

2021年度学生コーディネーター 神戸三田共同代表
総合政策学部3年 赤畑 清花
理工学部3年 井吹 未奈



2020年度に引き続き、2021年度も神戸三田キャンパスの学生コーディネーター共同代表を務めさせていただきます、総合政策学部3年の赤畑清花と理工学部3年の井吹未奈です。

2021年度も学生COの活動は新型コロナウイルスの影響を強く受けると考えられます。その中で、「今でも出来ること」「今だからこそしなければいけないこと」を改めてメンバー一同考えて活動していく必要があると思います。そのため、メンバー一人一人が個人目標をたてて、一年を通して目標を達成できるよう努めております。

私たちは、2020年度も代表を務めておりましたが、2021年度は二回目の代表部として自分のことだけでなく、神戸三田キャンパスの支援室、ひいてはキャンパスを超えた学生CO全体のサポートに目を向けられるようにしたいと考えています。三田の学生コーディネーターもメンバー数の増加により、実践的で挑戦的な企画に取り組むことができるようになり、活動できることの喜びを実感しています。

2020年度の経験を活かして、より関西学院大学でのボランティア活動の活性化に貢献してまいります。

記錄事項

全国社会福祉協議会ボランティア情報誌

「ボランティア・市民活動のコーディネーター・リーダー等推進者のための ボランティア情報」2020年11月号 (No.522)



大学

Vol 8

ボランティアセンターだより

～若さを地域につなぐ～

学生らしい気づきや若い力を活かした発想の活動が、ボランティア・市民活動の新たな可能性を広げています。大学ボラセンの「今」を紹介します。

ボランティア活動を支える

関西学院大学ヒューマン・サービス支援室(以下、支援室)は、2016年、ボランティアをしたい学生への情報提供やサポートを行うために開設され、今年度59名の学生コーディネーター(以下、学生CO)とともに学生のボランティア活動を支えています。毎年、夏のボランティアツアー(学生COが一般学生とボランティアに参加)や冬のボランティアweek(ボランティア紹介や活動内容の展示)など、学生がボランティア活動に参加できるようなしなげづくりを行っています。

今年の9月には支援室に登録するボランティア団体(21団体)の合同説明会「WEBボランティアEXPO」をオンラインで行い、総勢約60名の学生が参加しました。10月には、支援室が企画した「食べ残しNOゲーム オンライン体験会」を行い、食品ロスの問題からSDGsについて考える機会とする交流会も行いました。

学生がボランティア体験を忘れないために

2016年の熊本地震の災害支援はこれまで15回行われ、計302名が現地ボランティアとして活動し、被災地とつながってきました。今年7月からは、「熊本地震現地ボランティア体験記～災害支援ボランティアの可能性～」としてボランティア参加学生にzoomを用いてインタビューを行い、記事をホームページに掲載しています。これは、学生自身が自らのボランティア体験に改めて向き合うことで、次のボランティア活動へつなげることをねらいとしています。

新たな形で学生がボランティアにつながる

小林さんは「コロナ禍で、例年行っている企画が中止になる一方で、学生は企画を自分たちで考え実現しています。また、オンライン化によりキャンパスごとの活動が、キャンパスの枠を超えた学生同士の活動となり、新しいかたちで学生がボランティア活動を展開し

ています」と話します。

小林さんと学生COは、毎週定期的にミーティングを行い、新たな企画を一緒に考えています。小林さんは、「学生自身がボランティアに積極的にかわりながら企画し、継続的に活動できるよう、支援室として学生に寄り添っていきたい」と話してくれました。



学生COの研修もオンラインで実施



昨年開催されたボランティアweek

ベイコムチャンネル テレビ番組

このまち夢いっぱい～未来のゆめ・まちプロジェクト～「大学生の社会貢献活動」2021年1月1日号 (#43)



ボランティア活動支援センター規程

第1条 関西学院大学に関西学院大学ボランティア活動支援センター（以下「支援センター」という）を置く。

（目的）

第2条 支援センターは、ボランティア活動の支援に関する基本方針を策定する。

（業務）

第3条 支援センターは、前条の目的を達成するため、次の業務を行う。

- 1 本学のボランティア活動に関する施策の企画・立案
- 2 本学のボランティア活動に関する全学的方針の立案及びその方策の推進
- 3 その他、前条の目的を達成するための業務
- 2 前項の事業を推進するために、支援センターにヒューマン・サービス支援室を置く。

（構成）

第4条 支援センターに次の構成員を置く。

- 1 センター長
- 2 センター副長
- 3 センター委員 3名（西宮上ヶ原、西宮聖和、神戸三田各キャンパスから1名）

（センター長）

第5条 センター長は支援センターを代表し、第3条に規定する事項について統括する。

- 2 センター長は副学長の中から、学長が任命する。
- 3 センター長の任期は1年とする。ただし、再任を妨げない。なお、センター長が任期の途中で退任したとき、新任者の任期は前任者の任期の残存期間とする。

（センター副長）

第6条 センター副長はセンター長を補佐する。センター長に事故あるとき、又はセンター長が欠けたときは、その職務を代行する。

- 2 センター副長は本学専任教員の中からセンター長が推薦し、学長が任命する。
- 3 センター副長の任期は1年とする。ただし、再任を妨げない。なお、センター副長が任期の途中で退任したとき、新任者の任期は前任者の任期の残存期間とする。

（センター委員）

第7条 センター委員はセンター長及びセンター副長を補佐する。

2 センター委員は本学専任教員の中からセンター長が推薦し、学長が任命する。

3 センター委員の任期は1年とする。ただし、再任を妨げない。なお、センター委員が任期の途中で退任したとき、新任者の任期は前任者の任期の残存期間とする。

（センター会議）

第8条 ボランティア活動の支援に関する基本方針を定め、それに基づいて、ボランティア活動を評価し管理するため、センター会議を置く。

2 センター会議は次の委員をもって構成する。

- 1 センター長
- 2 センター副長
- 3 センター委員
- 4 大学宗教主事
- 5 学長補佐 1名
- 6 学生活動支援機構長補佐 1名
- 7 大学事務統轄
- 8 大学課長
- 9 学長が必要と認めた者 若干名

3 センター会議は、副学長が招集し、議長となる。

4 センター会議が必要と認めたときは、センター会議の議を経てセンター会議委員以外の者を出席させることができる。

第9条 センター会議は、次の事項を協議する。

- 1 本学のボランティア活動に関する施策の企画・立案
- 2 本学のボランティア活動に関する全学的方針の立案及びその方策の推進
- 3 支援センター予算・決算に関する事項
- 4 支援センター諸規程に関する事項
- 5 ヒューマン・サービス支援室の人事に関する事項

（規程の改廃）

第10条 この規程の改廃は、センター会議の議を経て大学評議会で決定する。

附 則

- 1 この規程は、2016年（平成28年）4月1日から施行する。
- 2 この規程は、2018年（平成30年）4月1日から施行する。

ヒューマン・サービス支援室規程

第1条 この規程は、関西学院大学ボランティア活動支援センター（以下「支援センター」という）規程第3条第2項に基づき、ヒューマン・サービス支援室（以下「支援室」という）について定める。

（目的）

第2条 支援室は、ボランティア活動の支援に関する基本方針に基づき、学生等によるボランティア活動を支援し促進することを目的とする。

（業務）

第3条 支援室は、前条の目的を達成するため、次の業務を行う。

- 1 ボランティア活動への支援・助言
- 2 ボランティア活動に関する情報収集と提供
- 3 ボランティア活動への啓発
- 4 ボランティア活動に関する評価及びそれに伴う公表
- 5 ボランティア活動協議会の開催
- 6 その他、前条の目的を達成するための業務

（構成）

第4条 支援室に次の構成員を置く。

- 1 室長
- 2 副室長 3名
- 3 ボランティアコーディネータ
- 2 室長は、支援センター副長が兼ねる
- 3 副室長は、支援センター委員が兼ねる

（室長）

第5条 室長は支援室を代表し、第3条に規定する事項について統括する。

- 2 室長は本学専任教員の中から支援センター長が推薦し、学長が任命する。
- 3 室長の任期は1年とする。ただし、再任を妨げない。なお、室長が任期の途中で退任したとき、新任者の任期は前任者の任期の残存期間とする。

（副室長）

第6条 副室長は室長を補佐する。室長に事故あるとき、又は室長が欠けたときは、その職務を代行する。

- 2 副室長はボランティアに関する知識を有する本学専任教員とし、支援室長が推薦し、学長が任命する。
- 3 副室長の任期は1年とする。ただし、再任を妨げない。なお、副室長が任期の途中で退任したとき、新任者の任期は前任者の任期の残存期間とする。

（ボランティアコーディネータ）

第7条 ボランティアの全学的な推進と調整を行うため、支援室にボランティアコーディネータを置く。

- 2 ボランティアコーディネータは室長が推薦した者を、支援センター長が任命・委嘱する。
- 3 ボランティアコーディネータの任期は1年とする。ただし、再任を妨げない。なお、ボランティアコーディネータが任期の途中で退任したとき、新任者の任期は前任者の任期の残存期間とする。

4 ボランティアコーディネータは学生コーディネータを助言指導する。

（学生コーディネータ）

第8条 ボランティア活動支援センター長はヒューマン・サービス支援室の業務の遂行にあたって、参加・協力する学生に対し学生コーディネータを委嘱することができる。

- 2 学生コーディネータはヒューマン・サービス支援室と協働し、ボランティア紹介とボランティア啓発活動を実施する。

（支援室運営委員会）

第9条 支援室の円滑な運営を図るため、支援室運営委員会（以下「運営委員会」という）を置く。

- 2 運営委員会は次の委員をもって講成する。

- 1 室長
- 2 副室長
- 3 学長補佐 1名
- 4 学生活動支援機構長補佐 1名
- 5 大学課長

3 運営委員会は、室長が招集し、議長となる。

4 運営委員会が必要と認めたときは、運営委員会の議を経て運営委員以外の者を出席させることができる。

第10条 運営委員会は、次の事項を企画・立案し、支援センター会議に提案する。

- 1 ボランティア活動への支援・助言
- 2 ボランティア活動に関する情報収集と提供
- 3 ボランティア活動への啓発
- 4 ボランティア活動に関する評価及びそれに伴う公表
- 5 ボランティア活動協議会の開催
- 6 その他、前条の目的を達成するための業務

（協議会）

第11条 室長は、関西学院大学で活動するボランティア団体の交流・協働を促進するため、室長、副室長による協議会を置き、開催する。

（規程の改廃）

第12条 この規程の改廃は、運営委員会の議を経て大学評議会で決定する。

附 則

- 1 この規程は、2016年（平成28年）4月1日から施行する。
- 2 この規程は、2018年（平成30年）4月1日から施行する。
- 3 この規程は、2019年（平成31年）4月1日から改正施行する。

了解事項

ボランティアコーディネータは期限付契約職員とする。

ボランティア活動支援センター名簿

ボランティア活動支援センター長 富田 宏治（法学部教授・副学長）	ボランティアコーディネーター 岡 秀和
ボランティア活動支援センター副長 関 嘉寛（社会学部教授・学長補佐）	小林 真綾
ボランティア活動支援センター委員 川島 恵美（人間福祉学部准教授） 岩坂 二規（教育学部准教授） 李 政元（総合政策学部教授）	

ヒューマン・サービス支援室名簿

ヒューマン・サービス支援室長 関 嘉寛（社会学部教授・学長補佐）	ボランティアコーディネーター 岡 秀和
ヒューマン・サービス支援室副室長 川島 恵美（人間福祉学部准教授） 岩坂 二規（教育学部准教授） 李 政元（総合政策学部教授）	小林 真綾

2020年度 学生コーディネーター代表部名簿

〈西宮上ヶ原キャンパス〉 代 表：中川 令実（文学部 3年） 副代表：西原 正悟（法学部 3年） 田中 緒実（社会学部 3年）	〈神戸三田キャンパス〉 共同代表：赤畑 清花（総合政策学部 2年） 井吹 未奈（理工学部 2年）
--	--

2020 年度
関西学院大学ボランティア活動支援センター
ヒューマン・サービス支援室 活動報告書
2021 年 11 月 発行

関西学院大学ボランティア活動支援センター
ヒューマン・サービス支援室
〒662-8501 兵庫県西宮市上ヶ原一番町 1-155
TEL: 0798-54-6061 FAX: 0798-54-6161
E-mail: kg.hssso.info@kwansei.ac.jp
URL: https://www.kwansei.ac.jp/c_volunteer/